



50周年記念シンボルマーク

# Monthly Report

SENDAI UNIV.

PUBLIC RELATIONS

Vol.140 / 2017 .DEC

(月1回発行)

## 本学開学50周年記念 男子サッカー部「現役選手対OBプロ選手」戦を開催



試合開始前の記念撮影 多くのプロ選手が参加してくださいました

本学の開学50周年記念事業である「男子サッカー部 vs 男子サッカー部OB現役プロ選手」戦が12月26日（火）に開催されました。

試合にはベガルタ仙台の奥埜博亮選手をはじめ、国内外のプロサッカーチームで活躍する14名のOBが参加。また、今試合の審判は、2014年ブラジルW杯の開幕戦の審判である西村雄一氏が務めました。試合当日はあいにくの天候にもかかわらず地元の小中学生や保護者、選手のサポーター、仙台大学一般大学生など約180名の方々が観戦に訪れ熱戦を見守りました。

一進一退の攻防の末、見事OB現役プロチームが貫禄をみせ、6対5で勝利しました。

この記念試合開催に関しては、この8年間だけでJ1ベガルタ仙台の所属する奥埜選手を含め、合計31名の現役プロ選手（引退した選手を除く）を輩出した男子サッカー部監督である吉井秀邦准教授が発案し、日頃から学生やチームがお世話になっている地元企業等に協賛をお願いして実現しました。

今回の大会の開催にあたり、(株)伊藤チェーン、岩手県北自動車(株)、(株)菓匠三全、加茂商事(株)、(株)木村スタジオ、(株)銀座薬局、京王観光(株)、(有)郷家精肉店、(株)佐々直、(株)住ゴム産業、ナルミキッチン、(株)ベガルタ仙台、マーブル・マーブル、の13社からご協賛をいただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。

また、今回の記念試合では、日本の大学改革に向けた動きの一つである日本版NCAAに向けた取り組みも兼ねて、無料でWEB配信をし、約800回の接続が行われ、遠く離れた場所にいる多くの方も、この記念試合を視聴しました。

(次頁に続く)

### 〈目次〉

本学開学50周年記念 男子サッカー部「現役選手対OBプロ選手」戦を開催	1
・男子サッカー部の2名がプロチームへ入団～ 合同記者会見を開催～ ・ポッチャ日本代表監督の村上光輝さんが 阿部学長を表敬訪問	2
・第23回デフリンピック競技大会入賞者2名が 文部科学大臣表彰を受賞 ・FIFAワールドカップ国際審判員 西村雄一氏とNHKアナウンサーの 勉強会が本学で実施されました	3
・アイリスオーヤマ(株)社製「コアトレーナー」 効果検証を実施 ・来年度から女子日本代表チャレンジ プロジェクトが始まろうとしています ・避難訓練が行われました	4
・仙台大学Presents 仙台89ERSホームゲーム を開催 ・学生食堂「なちゅら」にイルミネーション誕生	5

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室  
直通 0224 - 55 - 1802  
Email kouhou@sendai-u.ac.jp

今回行われた試合のWEB配信について吉井監督は、『今後このWEB配信は、保護者や応援して頂ける方へのサービス向上や外部に積極的に発信していくことによるサッカー部や大学の価値向上が見込まれるので、日本版NCAAに向けた取り組みも兼ねて実験的に進めていきたい。』と継続して発展的に活用することへ期待を寄せました。

男子サッカー部では、これからもこのような地元と密着したイベントや地域貢献事業を行っていく所存ですので、引き続き応援して頂ければ幸いです。



08チームのキャプテンを務めた奥笠選手



審判は西村雄一氏が務めた



大会の様子はLC棟や第三体育館ビジョンにも中継された

## 男子サッカー部の2名がプロチームへ入団～発表記者会見を開催～

このほど、男子サッカー部の山田満夫選手と川上盛司選手が来年4月からJリーグで活動することが決定し、12月24日（火）に入団発表記者会見がサッカー場クラブハウスで行われました。

J2松本山雅FCへの入団が決定した山田選手は「この4年間、仙台大学でプレーできたことや、スタッフや仲間にも恵まれたことは自身の誇りです。支えてくださった方には試合に出場することで恩返しをしていきたいと思えます。チームに貢献し、J1昇格に向けて頑張りたいです」と抱負を述べました。

また、同じくJ2栃木FCへの入団が決定した川上選手は「プロに入団することができ幸せな気持ちです。大学4年間で様々なポジションを経験することができ成長できました。プロではこれまでに身に着けた力を発揮したいと思えます」と力強く決意を述べました。

会見には阿部芳吉学長も参加し、「2名の選手がプロの世界に進むことは後輩たちの力になる。これまで以上のプレーヤーに成長できるように頑張ってもらいたい」とエールを送りました。



今後の活躍を誓った山田選手（左）と川上選手

## ボッチャ日本代表監督の村上光輝さんが阿部学長を表敬訪問

12月10日からアラブ首長国連邦のドバイで開催されるアジアユースパラ競技大会のボッチャ競技で日本代表チームの監督を務める本学大学院1年の村上光輝さんが12月7日、阿部芳吉学長を表敬訪問しました。

村上さんは「今大会を2020年東京パラリンピックにつながる大会にしたいと考えています。出場する4種目すべてでメダルを獲得できるように頑張ります」と大会に臨む決意を語りました。

阿部学長は「大会遠征中には様々な苦勞もあるでしょうが目標の達成に向けて頑張ってください」とエールを送りました。

村上さんは2016年にブラジルで開催されたリオデジャネイロパラリンピックでも監督を務めており、日本初の銀メダル獲得に貢献しました。



阿部学長に大会に向けての抱負を語る村上さん

## 第23回デフリンピック競技大会入賞者2名が文部科学大臣表彰を受章

平成29年12月5日、第23回夏季デフリンピック競技大会における入賞者の文部科学大臣表彰式が行われ、本学の佐々木琢磨新助手（陸上競技）と星泰雅（体育学科1年）（水泳競技）がそれぞれ受章しました。またこの表彰式に先立ち、皇居において天皇・皇后両陛下の拝謁の栄を賜りました。

表彰式は東京都港区白金台の「八芳園」において、林芳正文部科学大臣、鈴木大地スポーツ庁長官、スポーツ庁今里譲次長の出席のもと執り行われ、国歌斉唱（手話通訳付き）のあと、入賞選手の名前が一人一人呼ばれ1位入賞した選手の代表1名、2位から8位までに入賞した選手の代表1名、選手の指導で特に貢献された指導者代表1名の計3名に出席者を代表し表彰状が授与されました。林文部科学大臣は「過去最多のメダル獲得となった今大会、国民に夢や感動を与えてくれたことを大変誇りに思います。今後益々のご活躍とデフスポーツの発展を祈念します。」と挨拶されました。

今回表彰をうけた佐々木琢磨新助手は「名誉ある文部科学大臣表彰を受章し今後益々気を引き締めて競技に臨みたい。」と話し、体育学科1年の星泰雅さんは「天皇皇后両陛下の拝謁など貴重な経験もでき、一生の思い出になりました。今後も精進したいです」と感想を述べ、表彰式へ列席くださった阿部芳吉学長からも祝福と励ましを受けました。



表彰状を手にする佐々木選手（左）と星選手（右）

第23回夏季デフリンピック競技大会（トルコ・サムスン）での成績

陸上競技 佐々木琢磨 男子100M 第7位、4×100Mリレー 第1位

水泳競技 星 泰雅 男子800Mリレー 第2位、400Mメドレーリレー 第2位、400Mリレー 第3位

## FIFAワールドカップ国際審判員西村雄一氏とNHKアナウンサーの勉強会が本学で実施されました

12月6日（水）、本学LC棟において2014年FIFAワールドカップの開幕戦で主審を務めるなど、2014年までサッカー国際審判員として活躍し、現在もJリーグでのプロフェッショナルレフェリーとして著名な西村雄一氏及びNHK仙台放送局をはじめ、東北地方各局のアナウンサー総勢8名がサッカーのルールに関する勉強会を開催しました。勉強会の後には、本学サッカー場で学生達による紅白試合を西村氏が審判する様子を熱心に見学しました。

このユニークな取り組みは、本学サッカー部の監督である吉井秀邦准教授が西村氏と長年懇意にしていることから実現したもので、集まったNHKアナウンサーのなかにはサッカーの審判資格者もいるなど、勉強会では大変活発な質疑応答がなされました。

NHKアナウンサーの方々がサッカーをはじめ、さまざまなスポーツの実況中継をするにあたっては、日頃の勉強が欠かせずこういった形での勉強会を定期的には自己研鑽に努めているそうです。勉強会終了後、いま学んだ知識を早速、確認するため一行はサッカー場に移動、本学サッカー部の学生たちが紅白試合をし、西村氏が審判する様子を片時も見逃すまいと熱い視線がおくられました。

見学したNHKアナウンサー一同、本学サッカー部員、隣で練習していた女子サッカー部員たちは、西村氏がジャッジしたあとで“何故、今、このように判断したのか？”を解説してくださることが、自分たちの知識はもちろん競技力向上に大変役立つと感想を述べ、男女サッカー部員たちはいつの日か、憧れの西村さんに自分たちも審判をしていただけるようなお一層の努力を誓っていました。」

## アイリスオーヤマ(株)社製「コアトレーナー」効果検証を実施

仙台大学で

は、アイリスオーヤマ株式会社より依頼を受け、同社製品である「体幹ストレッチ コアトレーナー」の効果を検証しています。この製品は、バーの中心がくぼんでいて、そこへ首を合わせることで体幹軸を維持したままエクササイズを実施することができ、様々な健康効果が期待されます。

本実証研究の対象は60～70代の男女30名で、身体組成や肩周辺の筋肉の硬さ、下肢筋力、バランスや歩行能力などを測定しています。10月末に1回目の測定をし、今回が2回目です。測定には本学の学生25名が参加し、講義で学んだことを実践する実学の間にもなっています。今後1月に最終測定をし、約2ヶ月の効果を検証する予定です。【報告：准教授 山口 貴久】



コアトレーナー（左）と本学で行われたコアトレーナー測定の様子

## 来年度から女子日本代表チャレンジプロジェクトが始まろうとしています

クリケットというスポーツは国内ではポピュラーではありませんが、残された最後のグローバルスポーツとも言われ、世界の競技規模はサッカーが32億人に対し、クリケットは15.6億人と世界2位に位置するスポーツです。プロのトップ選手であるコリー選手（インド）の年収は、約30億円だそうです。

そのクリケットは、国内での競技人口が増加しつつあります。この度、日本クリケット協会・事務局長の宮地氏と代表選手が本学を訪ね、朴澤理事長・学事顧問、阿部学長、マーティ・キーナート上級研究アドバイザー、仲野体育学科長、吉田事務局長とで話し合いが持たれ、女子日本代表チャレンジプロジェクトに本学の女子学生でチームを作りチャレンジする構想で合意が得られました。その前提として、同協会が募集する15名程度が選考されるチャレンジャーの選考会（3月）に、本学から選出される女子学生を派遣する計画になっています。

同協会からは、2～4年分の活動費は既に確保してあるので、チームに所属する女子学生、更には本学の経済的負担は最小限になるという確約も得ています。さらに、定期的に指導者を派遣し、練習等での指導もして下さるそうで、仙台にも社会人チームがあり、練習相手や定期的な試合も可能だそうです。

バックグラウンドとして、野球型種目・テニス・陸上競技（槍投げ等）・バレーボールやバスケットボールなどの経験者がクリケットに向いているようです。

素質があれば、半年～1年で日本代表になるのも夢ではないスポーツであり、新たなスポーツにチャレンジしようという女子学生がチームを作り（1チーム11名）、仙台大学から世界に羽ばたく選手が近い将来出現することが期待されます。新入生でも在学学生でも加入でき、チームを結成することから活動が始まりますので、今後の動きに注目が集まりそうです。【報告：副学長 教授 仲野 隆士】



本学を訪れた日本クリケット協会の宮地理事長（左から3人目）

## 避難訓練が行われました

12月28日（木）に避難訓練が行われました。今回行われた避難訓練は、午前10時に学生食堂「なちゅら」からの出火したことを想定し、消防署への通報、初期消火、避難誘導などの流れを、あらかじめ定められた役割ごとに連携した動きの元で確認しました。また、避難訓練終了後には消火器を使った初期消火訓練も行われるなど、教職員が防火への意識を新たにしました。

本学では3月に地震、12月には火災を想定した避難訓練を実施し、「いざ」という時に備えています。



消火器を使った初期消火訓練

## 仙台大学Presents 仙台89ERSホームゲームを開催

12月24日（日）、「仙台大学Presents 仙台89ERS ホームゲーム」仙台89ERS vs 熊本ヴォルターズの試合がゼビオアリーナ仙台を会場に開催されました。約2000名の観客とともに、本学の学生や教職員、明成高校の生徒なども、仙台89ERSで活躍する石川海斗選手（明成高校OB）などが出場する白熱した試合を観戦しました。当日は本学の冠ゲームということもあり、試合は、現在仙台89ERSに出向中の管理栄養士資格を有する菊地遥新助手によるTip Offセレモニーによってスタートしました。オフィシャルタイムアウトの中では、仙台89ERSチアの鈴木保之香さん（平成23年体育学科卒）と体育学科2年の羽川佳苗さんが、健康福祉学科の紹介を中心に、本学についてPRしてくれました。また、ハーフタイムには新体操競技部による美しい演技で観客を魅了しました。さらに、会場内に設置されたブースでは、仙台89ERSでインターンシップを行っている学生による「シュートゲーム」というイベントなども行われました。試合の最後には、新体操競技部の阿部楓花さん（体育学科3年）が、MVP賞受賞した仙台89ERSの選手へ本学からの記念品である「50周年記念グッズの詰め合わせ」の贈呈も行われました。

今後も仙台89ERSとの連携をさらに深め、スポーツ栄養やスポーツ情報分析、スポーツコーチングなど多岐にわたる分野で、プロの現場での実践的な学習や人材育成、チームや選手の補助の機会を提供して参ります。なお、1月28日（日）もカメイアリーナ（仙台市体育館）で行われるホームゲームが、本学の冠ゲームとして開催されます。



試合終了後の記念写真



## 学生食堂「なちゅら」にイルミネーションが誕生

12月から1月末日までの予定で、学生食堂「なちゅら」にイルミネーションがお目見えしています。仙台大学開学50周年のPRと、本学をイルミネーションにより明るくしようと、学友会の学生や硬式野球部の学生、教職員が力を合わせて設置したもので、本学教職員はもちろん、町の方々の目も楽しませています。

イルミネーションの実施は今回が初めてで、来年度以降も引き続き行われる予定になっています。



(上) イルミネーション点灯の様子  
(左) イルミネーション取り付け作業